



啓運寺境内の桜

高田 本山 だより

発行所

真宗高田派宗務院内
三重県津市一身田町2819
電話 059-232-4171
F A X 059-232-1414
H P www.senjui.or.jp

発行部数 35,000部

心のふれあいを求めて

総務 高倉 隆乗

「夕暮れせまる自坊の境内、桜花の下、心の癒しに一服いかが」

十年前になるか。京都へ行った帰り路。平安神宮に立ち寄って、何気なく買った桜の苗木。今では本堂の軒下まで大きく成長。地上すれすれまで垂れ下がった立派なだけ桜。小さな花弁（紅八重桜）一杯に枝もしなれると満開に咲き乱れ、ふっと思い浮かんだのが、この立派な桜花、何とか生かせる事が出来ないか。唯咲いているだけではもったいない。

昨今よく云われている、寺とのつながりが薄くなったとか寺離れが云々と、これこそ桜が招く良いチャンス。ここで咲くのも何かの縁。阿弥陀様のお導きか、桜茶会でもやって見ようかと軽い気持ちで言ったのが三年前。四月と云えば田植え前の多忙の時期。昼間が駄目なら夜桜か。昼間の仕事の疲れの癒しになればと、ライトアップにボンボリ下げて、堂内よりは琴の音。お抹茶にビールにお菓子を用意。子供からお年寄まで、まずは本堂の阿弥陀様に手を合わせ、今日この日に感謝して、親の背を見て子供も同じ、桜花爛漫木の下で桜酔、談笑と大繁盛。今年もやって良かった。これもお寺を通じての大事な心のふれあいか・・・。

合掌

御影堂落慶大法会

平成22年5月13日～17日



歓迎



小野小町
色みえで うつろふものは
世の中のひとの
花にぞありける

近衛信尹と三十六歌仙絵

ここに画かれているのは、いうまでもなく三十六歌仙の一人で、美人として知られた小野小町です。古今和歌集にも採られているこの歌は、「あせていく色も見えず、うつろうものは、男女の仲の人の心の花であった」という意味だそうです（参照、『定家八代抄』下巻、岩波文庫）。このほかにも、斎宮女御や僧正遍昭など、三十四面の歌仙絵が伝わっていますが、和歌部分の染

筆は、安土桃山時代から江戸時代初期にかけて活躍した、近衛家第十七代当主の近衛信尹（一五六五〜一六一四）で、その書風は近衛流とも三藐院流（三藐院は没後の諡）とも称され、本阿弥光悦や松花堂昭乗とともに寛永の三筆として知られています。この歌仙絵には繊細な筆遣いで装束の細部が極めて精緻に表現されていますが、絵師は不明となっています。あるいは、和

歌や連歌だけではなく絵においても力量を発揮した信尹自身が画いた可能性もあります。

近衛家と専修寺との関係は、信尹の祖父である近衛植家（一五〇三〜六六）が、妹の嫁ぎ先である將軍足利義晴（一五一一〜五〇）とともに京洛の争乱を逃れて近江・坂本の地へたびたび避難しましたが、当時の坂本には専修寺第十世真慧上人が活動の拠点として建立した妙林院があつてその関係が深まったようです。公家の出身であった専修寺第十二世亮慧上人やその嫡子の第十三世亮真上人は、足利將軍家や近衛家当主との関係を強固にして専修寺を継承されます。

とくに、信尹の父である近衛前久（一五三六〜一六一二）は、織田信長と親交があり、信長と大坂・石山本願寺との長年の争いの調停役を務め、天正八年には本願寺を石山から退去させたことでも知られています。また、信尹の元服には信長自身が烏帽子親と

なっており、「信」の一字を与えて信基と名づけたほど親密だったようです。信尹と名を改めたのは慶長六年（一六〇一年）で、専修寺にはそのころの信尹自筆の書状が遺されています。

重要文化財講座は、毎月の第四木曜日の午後四時から五時まで、宗務院の二階にて開設しています。どなたでも自由にご参加下さい。

（宝物館主幹 新光晴）

世の中安穩なれ 仏法ひろまれ

絵所頭 安川如風

御本山絵所

社寺建造物彩色、障壁画、仏画、絵伝、頂相画、天井画などの制作と修復・復元承ります。その他石工、木地、漆、箔押、鋳金具など、ご相談下さい。

ものづくりの観点から、あらゆる職種の本物の職人による法物制作のお手伝いをします。

絵所
〒514-0114 三重県津市一身田町2819
TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414
(本山宗務院内 絵所)

リレー法話

若い世代へお念仏を

佐藤 光達



自坊では、少子高齢、空洞化の中、夏休み日曜学校（半日）（年）を辛うじて開催しております。

小学生とのお母さん方にも一緒にピアノ伴奏、紙芝居などをお願いし、勤行のあと全員で童謡を歌いながら、子供さんの目線で次の様な法話を平易な言葉で補いながら行っています。

●本尊さんはどうして金ぴか何んですか。

「なむあみだぶつ」ってどういうこと。

阿弥陀仏である本尊さんは本当にお尊いもの。売ったり買ったりはできません。皆さんは、かけがないお母さんを買ったりできますか。いつの時代にどのような国のお父さん、お母さんのもとに生まれるのか、男の子か女の子であるのか、自分では選んで生まれて来ることはできません。また大人になっても自分一人では生きていくことはできません。

たくさん、たくさんのご縁、ご先祖の命のつながりをへて、そのご縁がわたしとなっています。シャボン玉の歌は、幼くして愛娘を亡くした野口雨情さんが、「屋根まで飛んで壊れて消えた」といのはかなさ、悲しさをこの詩に表しました。

今日、今、ここにいのちを頂いて、元気に過ごせることは、めったにない、ありがたいこと、不可思議なことであり、私達は仏さんの子とい

われるゆえんです。

七ツの子の歌はお母さん、お母さんと子供に呼ばせているのはお母さんであるほとけさんです。

阿弥陀仏がいのちの親であり、「必ずみんなを救う」との呼び声、これが「なむあみだぶつ」六字のお言葉「本願」となっています。

私達は自分の思いを振り回し、思い通りにならないと怒ったり、苦しみます。そうした時、「なむあみだぶつ」と本願のお働きをこの身に感じて、「願われている」ことに気づかせて戴くその瞬間が「救われている」ということになりませんが、なかなか分からない。分かるうとしないのが私達です。

凡そ二千五百年前に、お釈迦さまの口を通して「お浄土では諸仏が阿弥陀仏を讃えておられ、そこではすべてのいのちが金色に輝いています。みんなは金色に輝く仏の子。勉強の得意な子も苦手な子も、元氣な子も病気がちな子もみんな夫々に輝いているのです。」と教えていただきました。

子供たちは夏休みの本堂での思い出だけが残るだけでしょうが、若いお母さん方にも法縁に遇っていただけます。

年忌、中陰などのご仏縁にも必ず若夫婦、子供さんたちを仏間に誘って頂き僧侶、同行さん共にお念仏のいわれを聞き続けるその姿こそが大事なことです。

（四日市 法泉寺住職） 合掌

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075)371-0854・8181~2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

高田本山御用達

井筒法衣店

社長 幾田 潤

京都市下京区堀川通新花屋町角（西本願寺前）
TELフリーダイヤル 0120-075-720
FAXフリーダイヤル 0120-075-490

三末照国著 教行信証講義

真仏土

真仏土文類を本文・延書・大意、語釈・現代語釈・師説にわけ講義 定価7350円税込

藤澤桂珠著

教行信証講讚

第五巻 信文類(末)

信文類(末)の信・念・釈論・真仏弟子釈・弁機彰法・釈義料簡について 定価7350円税込

普賢晃壽著

阿弥陀仏の救い

人生の帰趨

私の心にとどいたいたいた親鸞聖人のおみのりについての思いと、法義を讃仰した文集 定価2100円税込

小林浄子著

あんたもわたしもみな兄弟

本願成就文・美しい姿・自殺はしないで・親と子の絆・お寺とは・心と体はひとつです 定価1700円税込

無名会同人編

仏と人 45

教団と寺と私と 足利孝之 / 仏法不思議ということ 源 義春 / 維新の真宗勸皇 僧 超然 / 南部松雄 / 時計の詩 森 正隆 / 止信傷のころ(二) 梯 實圓 / 恩の世界 高田慈昭 定価4100円税込

600 8342 京都市下京区花屋町西洞院西入

永田文昌堂
電話 0755-3371
FAX 0755-3371
0755-3371
0755-3371
0755-3371
0755-3371
0755-3371

ご和讃のお話

吉尾 弘教

佛号むねと修すれども

現世をいのる行者をば

これも雑修となづけてぞ

千中無一ときらわるる

(善導禪師第六首)

『高田勤行聖典』一七八頁

この和讃は善導大師の『往生礼讃』前序専雑得失の文「雑を修して至心ならざれば、千が中に一もなし」より造られました。

『往生礼讃』は浄土願生者の日常行儀を説き明かした書物です。

佛号とは阿弥陀佛のみ名という意味で、南無阿弥陀佛のことです。口では「南無阿弥陀佛」「南無阿弥陀佛」と佛のみ名を称えています。が、心の中では南無阿弥陀佛と称えるだけで大丈夫だろうかと疑いを抱き、「・・・」して下さい」「・・・」になり、差し入れて称え、その称名の功德でこの世の願いや目

的を達成しようと祈る行者を雑修の行者と名づけます。このような行者は千人の中に一人も、真実報土に往生する事は出来ません。往生成佛の為にはふた心なく一心に阿弥陀佛のみ名を称えなさい。と誠められています。

この和讃は自力のはからいを雑えた行を雑修の行と名づけ往生不可と示し、善導大師が力説された称名正定業をお勧めされています。又、この和讃で親鸞聖人は祈りの否定を明確に示されています。祈りを考える上に、参考になるお話が書物に掲載されていましたので、ここに紹介します。

ある村はずれに二つのお地蔵さんが安置されました。一つは満願地蔵といって、なんでも願い事を叶えてくれるお地蔵さんです。もう一つは願断ち地蔵といって、願い事を断ち切ってくれるお地蔵さんです。満願地蔵の前には沢山のお供えが置かれ、村人たちはいろんな願い事をしました。満願地蔵のお陰で村人は豊かにな

っていききました。人間とは欲深いものです。もつと豊かになりたい。村一番の金持ちになりました。そして、村中の人々が自分に都合の悪い人が不幸になるようにという願いが生じてきました。すると満願地蔵はその願いに応えたのです。村全体に不幸な出来事が次々と起こり、豊かだった村が貧しい村になってしまいました。

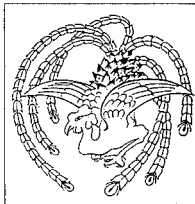
そこで村人は満願地蔵の前にあつまり、愚痴を言い合ったり、満願地蔵を川に沈めようと話し合いました。その時、村一番のうすのろといわれていた男が言いました。「おらの爺様から聞いた話だが、苦しい時にはすべての願い事を捨てると楽になるそう。願断ち地蔵さまはそんな悩みを叶えてくれるそう。それを聞いた村人は二つの地蔵さんが立っている事の理由がわかったのです。

この昔話でわかるように、神仏へ願いをかける祈りは利己的な願望を満足させるものです。他者への配慮

がまったくありません。それどころか、他者を貶めようとすることもありません。阿弥陀さまは生死一如・自他不二・怨親平等の心から、私たちに先立って救わんと願いをかけて下さっています。私たちは自分の願いを断ち切って、(願断ち地蔵のはたらきと同じです。)ひたすら阿弥陀さまの願いに随順するのです。(満願地蔵と全く反対です。わたしたちの願いを叶えるのではなく、佛の願いを私たちが受け容れるのです)。そこに本当の自分が照らし出され、佛の照護のもと力強い人生を歩むことが出来るのです。

人間窮地に陥った時、日々の聞法を忘れて祈りの行動に走りがちです。その時、阿弥陀さまは祈る事の過ちを知らしめ、困難に立ち向かう力と、災難を克服していく智慧を与えて救いたまいます。苦悩の人生を阿弥陀さまの願いに導かれた光あふれる世界として、歩ませてください。

(大阪市 大乘寺住職)



仏壇・仏具

ぬし与

ホーオーが目印!

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・鈴鹿店・蟹江店・大安店・阿下喜店

緑と共に75年

三重県知事免許認可 (一級造園技能士) 造園・庭園管理

山本造園

代表 山本 進一郎

津市栗真小川町 869-77

TEL 232-7453

FAX 232-7453



法然・親鸞両上人をはじめ、逮捕した専修念仏者を、どのように処分するか朝廷で僉議せんぎされている場面。

承元じょうげんの法難

親鸞聖人が法然上人のもとで承元の法難と言われる念仏弾圧に遭われたのは三十五歳の時でした。不条理な裁きによって仲間を死罪とされ、法のもとに集まっていた法然門下のつながりが朝廷の権力によって解体されてしまったのです。

聖人は越後に流罪となりました。當時一番の文化の中心地であった京都から、気候も文化も異なる越後での生活は、聖人にとってはまるで別世界のこのように感じられたのではなかったのでしょうか。それはまるで大地に叩きつけられるような容赦の無い責め苦に感じられたことと思われます。また僧籍も剥奪されてしまいます。九歳で仏門に入られた聖人が「僧にあらず俗にあらず」という立場で生きて行かれた苦しみは推し量るに余りあります。

聖人はこの承元の法難を生涯忘れることなく深く胸に刻まれたことが『教行証文類』の最後に次のように書き記されていることから伺えます。「主上臣下、法に背き義に違し、忿をなし怨みを結ぶ」と厳しい言葉で書かれています。

ところでもしこの時、聖人が承元の法難に遭わなかったとしたら、今日の「浄土真宗」という教えは存在しなかつたかもしれません。その理由は、たつたひとり越後に流されたことが、聖人の信心が深められる大切な機縁となつたと思われるからです。越後での大地にしがみつくような生活や、その日を生き抜くのに精一杯の人々の片隅に身を置く中から「獵師・商人、さまざまなもの、みな、いし・かわら・つぶてのごとくなるわれらなり」(唯信鈔文意)と身をもつて一切衆生の中に己を見出すことができたのです。

またその後、聖人は生涯を掛けて専修念仏が真実の教えであることを数多くの著作でもって顕かにされます。そこには承元の法難という仏法に背いた裁きに処された者のひとりとして、自らの手で念仏を顕かにせんとする思いが強くあつたと思われます。

親鸞聖人にとって承元の法難は許しがたい悲しい事件に違いないでしょうが、もしあの法難がなければ今日の私たちが「南無阿弥陀仏」と本物のお念仏に出合うことはなかつたでしょう。

(教学院第三部会)



ご法事のご会食 ご予約承り中
 ～少人数から団体のお客様まで貴宗ご利用ください～

お膳の高級/薄造+和食(ソックス)
本山会席

各膳献立よりお選びいただけます。
 ◎精選料理 1人前 4,000円(税別) ◎本山会席 1人前 3,500円(税別)

お問い合わせ先
〒高田青少年会館 TEL.059-232-6079

高田本山御用達
 三重県仏教会御推薦

石碑
 記念
 燈籠

高級御影石専門店
御影石材(株)

(石に御用の方は) イシニゴヨ
☎0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前)
 ☎059-224-1700(代)

御影堂落慶記念品打敷

- 柳葉菩提樹金紋赤地菊桐唐草模様折込
- 記念文字入り

改めて落慶の御志納下されました方へ記念品としてお渡しします。



前号でお知らせいたしましたとおり御影堂落慶法会の記念品として打敷を準備しております。赤地・地模様入りに柳葉菩提樹金紋、大きさは大(約60cm)小(約43cm)2種類です。落慶法会の御志納として3千円以上をいただきました方へお渡しいたします。大小合わせて5千枚の限定記念品です。

第83回 佛教文化講座

平成21年8月1日から5日まで
8月1日は午前9時30分より
2日以降は午前9時より

会場 宗教院2階 第1会議室

一般聴講歓迎

8月1日	御親講	法主殿
8月2日	科学と宗教のはざままで 宇宙に学ぶ“人生の歩き方” 鈴鹿短期大学学長	佐治 晴夫先生
8月3日	宗教多元時代における親鸞浄土教の課題 龍谷大学文学部教授	武田 龍精先生
8月4日	情念の布教法・節談 龍谷大学・花園大学講師 真宗大谷派満覚寺住職・節談説教師	直林 不退先生 廣陵 兼純先生
8月5日	親鸞聖人と高田宝庫の百年 専修寺宝物館主幹・東海寺住職	新 光晴先生

京仏壇京仏具・ご本堂内装
お仏具ご修復・お納骨壇



高田本山御用達

京仏具

小堀

本店/京都市下京区烏丸通正面上る ☎(075)341-4121(代)
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈! お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」
お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595

お墓

寺標

墓地移転

霊園開発造成

高田本山御用達
石匠位認定店
全国優良石材店、認定店

創業100余年

株式
会社

ISHISEN
STONES 石仙

(旧(有)山本石材店)

四日市市近鉄阿倉川駅前

☎0593-31-4114
ライコ-コイソ

ご不便を
おかけいたします。

平成21年5月25日より、専修寺唐門（三重県指定文化財）の修復工事がはじまりました。工事予定期間は平成22年11月末日までです。工事中は唐門からの通行ができませんので山門からお入り下さい。



工事が始まり扉が閉められた唐門



エレベーター遠景

御堂へのおまわりは、エレベーターをご利用下さい。通天（御影堂と如来堂をつなぐ廊下）中央

にエレベーターがございませう。

どうぞご利用下さい。ご利用の仕方は、通天の下をくぐり、エレベーターの入り口まで進みます。そこで靴を脱いでお入り下さい。

もちろん車イスでもご利用していただけます。



エレベーター入口

完成しました。

山門と唐門の中間にありました旧トイレが新しく休憩所兼化粧室に生まれ変わりました。男性用、女性用トイレに併せて、どなたでも使えるように配慮された個室のトイレが新設されました。赤ちゃんのおむつ交換ができるシートも併設されています。「ユニバーサルデザイン」のまちづくり」三重県の設置基準に適合した施設です。どうぞご利用下さい。



休憩所兼化粧室



シンボルマーク

※ユニバーサルデザインとは、「すべての人のためのデザイン」を意味し。年齢や障がいの有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすることをいいます。

(三重県のサイトより)



休憩室



個室トイレ内部



ベビーシート



自分自身を深く見つめること。
親鸞聖人を知ること。



真宗教団連合

これからの本山諸法会

◆ 歓喜会

八月十四日～十六日
晨朝 午前七時より
日中 午前十一時半より

◆ 讚仏会

九月二十日～二十六日
晨朝 午前七時より
日中 午前十一時半より
(二十三日は勤行後に御親教)
どうぞご参詣下さい。

◆ 第八十三回佛教文化講座

八月一日～五日午前九時より開講
(但し初日は九時半より開講式)

御親講 法主殿

一日
二日

科学と宗教のはざままで
宇宙に学ぶ“人生の歩き方”
鈴木短期大学学長 佐治 晴夫先生

宗教多元時代における親鸞浄土教の課題
龍谷大学文学部教授 武田 龍精先生

情念の布教法・節談
龍谷大学・花園大学講師 直林 不退先生
真宗大谷派満覚寺住職・節談説教師 廣陵 兼純先生

親鸞聖人と高田宝庫の百年
専修寺宝物館主幹・東海寺住職 新 光晴先生

◆ 法話発表会

九月四日(金)(十時より)

どうぞご聴講下さい。

この夏、一身田寺内町でタイムトリップ
歴史まるごと体験塾

八月十日(月)～十二日(水)



本山の用度講に泊まって、
寺内町の歴史や文化にふれ
あいましょう。
自分たちの手で作った、
和菓子やこんにやくを
食べてみようよ。



対象 小学校五・六年生
参加費 一人 九、〇〇〇円
申込先 津市教育委員会事務局
生涯学習課
〇五九一三二九一三二五一



歴史まるごと体験塾のようす

編集後記

この六月より、得度式(とくどしき・高田派の僧侶となるための儀式)にあたり、従来の色衣・五条(しきえ・ごじょう)というカラフルな衣から、黒衣・墨袈裟(こくえ・すみげさ)という黒づくめの衣装に変わりました。親鸞聖人の肖像画を拝見しますと、申すまでもなく黒衣・墨袈裟のお姿です。質素ながらも、黒という色合いが、余計なものが一切雑わることがない純一さを感じさせます。また逆に、全ての色を取り入れてしまうような包容さも表しているように感じられます。あたかも聖人のまもつていらつしやる衣が、お念仏のみがまことですよとおつしゃつておられるように思えます。これからは、親鸞聖人と同じ装束で得度式が行われます。聖人を慕う気持ちが一層かき立てられるのではないのでしょうか。(F)

寺院名